



児童館における大学と連携した学習支援事業の実施について

一人ひとりの子どもが生まれ育った環境に関係なく、学び、成長していける社会を実現するため、京都市では、18,000件の市民アンケートに加え、子どもや家庭に直接関わる約800もの団体、施設からの聴き取り調査等の徹底した実態調査を実施しました。その結果に基づき、今年3月に、13の新規施策と24の充実施策を含めた計133の施策を掲げた「貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」を策定しています。

この度、本計画を踏まえ、公益社団法人京都市児童館学童連盟と大谷大学・大谷大学短期大学部、京都教育大学、京都橘大学及び花園大学と本市の6者で協定を締結し、子どもたちの身近な居場所である児童館において、大学生ボランティアが勉強の支援や相談に応じる学習支援事業に取り組みますので、お知らせします。

1 児童館における学習支援事業について

(1) 事業趣旨

子どもたちが、身近な「お兄さん、お姉さん」のような存在である大学生ボランティアと勉強や遊び、行事等、様々な体験を共に経験することにより、人と人のつながりの中で、子どもたちの孤立解消と自己肯定感を高めるとともに、子どもたちに関わった大学生、更には、地域が元気になっていく本市ならではの「はぐくみ文化」を推進する取組として進めていきます。

(2) 事業内容

市内131箇所に存在し、地域の子育て拠点である児童館、福祉・教育系学科を抱え、意欲にあふれる学生が多く存在する4大学、そして、本市がそれぞれの強みを生かし、「三位一体」となって事業を実施します。

ア それぞれの役割

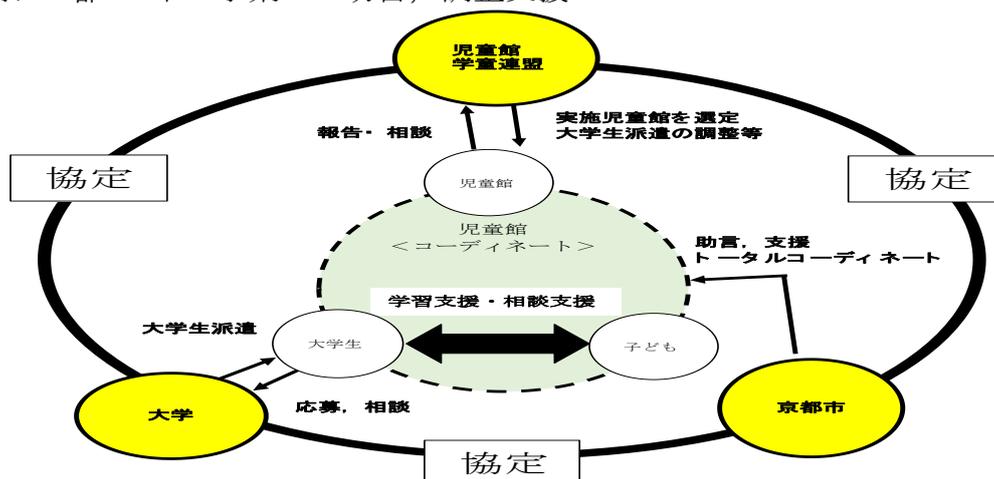
児童館学童連盟：大学生受入の窓口等、児童館との橋渡し・サポートを実施

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学：学生生活支援の窓口、ゼミでの声掛け等による大学生の派遣協力

大学生：子どもへの学習、相談支援の実施

京都市：事業への助言、調整支援



(2) 事業効果

子どもたちにとっては、大学生ボランティアとのつながりを通じて、豊かな創造性や自己肯定感をはぐくむきっかけとなる効果があるほか、大学及び児童館にとっても以下のとおり大きな事業効果があります。

ア 大学・大学生

福祉、教育等を学ぶ学生が、本事業に参画し、生きた学習の場として、子どもたちとの触れ合いを通じ、多くの「気づき」「学び」を得ていただける機会となります。

イ 児童館、児童館学童連盟

ボランティア活動の推進及び学習支援に係るノウハウの共有化により、職員の資質向上及び児童館全体の更なるレベルアップを図ります。

(3) 対象児童館

まずは、以下の6児童館をモデル的に実施し、事業効果を見極めたうえで、対象児童館の拡大を図っていきます。

【モデル実施児童館】

西陣児童館、京都市勧修児童館、大宅児童館、
京都市大塚児童館、塔南の園児童館、うずらの里児童館

(4) 実施時期

多くの子どもたちが児童館を訪れる夏休み期間中から、定期的にも実施していきます。

2 協定締結式について

(1) 締結内容

児童館学童連盟、4大学（大谷大学・同短期大学部、京都教育大学、京都橘大学、花園大学）、本市との間で以下の内容の協定を締結します。

- ・ 児童館において実施する学習支援事業の大学生への派遣
- ・ 児童の健全育成活動全体の活性化
- ・ 大学生等の知識・技術の向上、人材育成 等

(2) 締結式

ア 日時

平成29年7月28日（金）15：30～16：30

イ 場所

京都市役所本庁舎 3階 第一応接室

ウ 出席者

山手 重信 京都市児童館学童連盟 会長
木越 康 大谷大学・同短期大学部 学長
細川 友秀 京都教育大学 学長
細川 涼一 京都橘大学 学長
丹治 光浩 花園大学 学長
村上 圭子 京都市副市長

【参考資料】

本市の貧困家庭の子ども等を取り巻く状況について

本市では、平成28年8月から11月にかけて、18,000件もの市民アンケート調査である「京都市子どもの生活状況等に関する調査」をはじめ、子育てや青少年支援の関係団体・施設等ヒアリングによって、貧困家庭の子ども等の徹底した実態把握（以下、「実態把握」という）に取り組んできました。

この実態把握により、貧困家庭の子どもを取り巻く様々な課題が明らかになりましたが、本事業においては、とりわけ「子どもの学力・学習等の状況」「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼し、児童館における大学と連携した学習支援事業に取り組みます。

実態把握から見てきた、貧困家庭の子ども等を取り巻く課題（抜粋）

○子どもの学力・学習等の状況

学習状況に遅れがある等の傾向が見られ、保護者との関わりが少ないことや、学習環境が整っていないといった状況が学力低下につながっているのではないかと指摘がある。

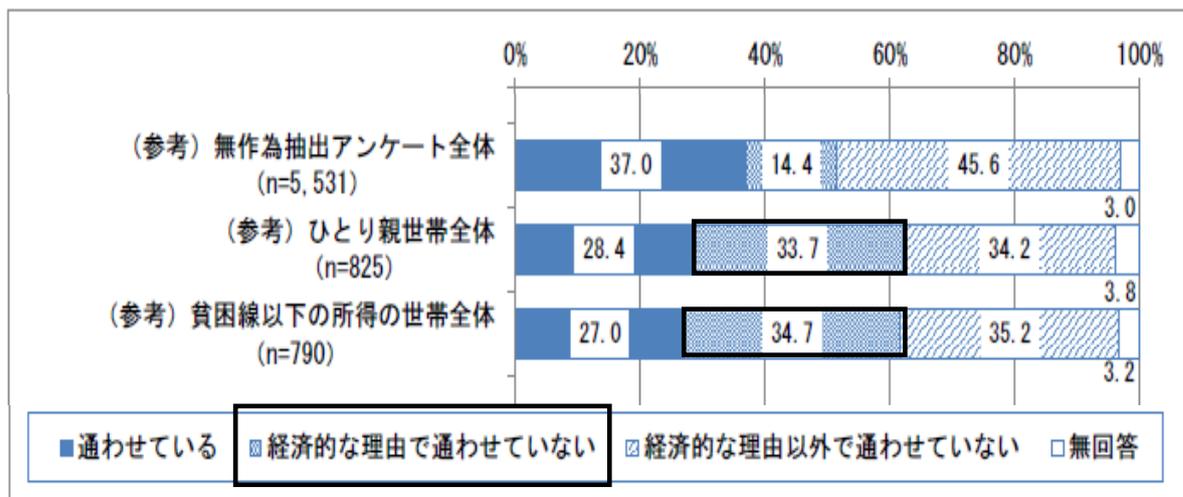
○子どもの自己肯定感

社会経験が不足していたり、自己有用感や自尊感情に乏しい子どもたちがいるが、親との遊びや会話での関わり等の機会が多い場合や、文化芸術活動・自然体験・スポーツ活動等の機会が多い場合等においては、子どもの自己肯定感が高い傾向がうかがえる。

【表1】実態把握の結果（子どもの学力・学習等の状況）

1 学習塾の利用状況

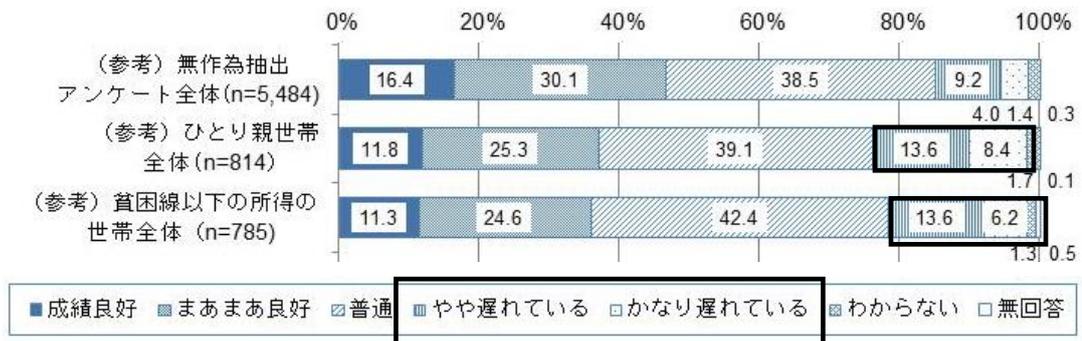
「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」では「通わせている」割合が全体と比較して低く、「経済的な理由で通わせていない」が小学生、中高生等のいずれも30%を超えている。



2 学校での勉強の成績の状況

全体と比較して、「ひとり親世帯」や「貧困線以下の所得の世帯」については、小学生、中高生等のいずれも「やや遅れている」や「かなり遅れている」の割合が高くなっている。

関係団体・施設等ヒアリングにおいても、学習する環境が整っていないといった課題を抱える家庭があり、結果として子どもに学習習慣が定着せず、学力低下につながっているのではないかと指摘がされている。



【表2】実態把握の結果（子どもの自己肯定感）

子育てにかかる時間やお金などの優先度が「最も優先すべき」の場合や、親との遊びや会話の頻度が高い場合、文化芸術活動・自然体験・スポーツ活動の経験の頻度が高い場合には、自己肯定感が高い割合が他と比較して高くなっている。

◆ 自己肯定感の状況(小学生)

<子育てにかかる時間やお金などの優先度別> (単位：%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 最も優先すべき	980	22.4	77.4	0.1
うち できるなら優先すべき	1,807	32.2	67.7	0.1
うち 他に優先すべきことがある・わからない	73	39.7	60.3	0.0

<親との関わり状況(親と遊ぶ頻度別)> (単位：%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち ほぼ毎日	441	20.4	79.4	0.2
うち 週に3~4日	516	22.5	77.5	0.0
うち 週に1~2日	1,299	30.8	69.1	0.1
うち 月1~2日・めったにない	605	36.9	63.0	0.2

<文化芸術活動の機会の有無別>

(単位：%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 月1回以上	458	19.0	81.0	0.0
うち 年数回以上	1,494	27.1	72.8	0.1
うち 年1回程度	488	34.4	65.6	0.0
うち まったくない・わからない	406	42.1	57.9	0.0

<自然体験の機会の有無別>

(単位：%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 月1回以上	389	25.7	74.3	0.0
うち 年数回以上	1,604	25.9	74.1	0.0
うち 年1回程度	575	33.9	65.9	0.2
うち まったくない・わからない	280	43.6	56.4	0.0

<スポーツ活動の機会の有無別>

(単位：%)

	(n=)	自己肯定感が低い	自己肯定感が高い	無回答
小学生調査	2,889	28.9	70.3	0.8
うち 月1回以上	1,609	23.7	76.3	0.0
うち 年数回以上	545	30.3	69.7	0.0
うち 年1回程度	200	35.5	64.5	0.0
うち まったくない・わからない	465	44.3	55.7	0.0